

瀬戸内海を「豊かな海」

にするため、公益財団法人県まちづくり技術センターが管理する加古川

下流浄化センター（加古川市）と揖保川浄化センター（姫路市）は、下水

処理後の放流水質をコントロールし、栄養分を高める

加古川下流浄化センター
まちづくり
技術センター

取り組みを続けている。

瀬戸内海では近年、事業場の排水規制や下水道の普及等により水質が改善した。

一方で、きれいになった海は、窒素・りんといっ

た栄養塩類が不足し、海が目的だ。

藻のノリの色落ちや漁獲量への影響が問題となっている。

加古川下流浄化センターでは県の要請を受けて平成20年度から、冬期

豊かな海へ、下水の放流水質調整

「季節別運転」で栄養分高める

（11月～4月）に下水処理方式を変更して運転する「季節別運転」の試みを始めた。

放流水の窒素濃度を増加させることで、栄養塩類の放流量を増やすこと

今年度で、試行段階を含めて14年目に入った加古川下流浄化センターの佐川泰一副課長は、「浄化センターでは微生物の力で下水処理をしている。通常

別運転への移行期間等は、微生物をうまくコントロールできるか神経を使う。試行錯誤を繰り返しながら、安定した季節別運転を継続したい」と話している。

幅に増加し、前年度の最大値の約2倍に高めることに成功した。

一方、揖保川浄化センターでも平成30年度から季節別運転の試行を開始している。

今年度で、試行段階を含めて14年目に入った加古川下流浄化センターの佐川泰一副課長は、「浄化センターでは微生物の力で下水処理をしている。通常